

第二次宝達志水町総合計画

基本構想 (素案)

宝達志水町

平成 31 年●月

目 次

1. 宝達志水町の将来像	1
(1) 計画の趣旨	1
(2) まちづくりのテーマ	2
(3) まちづくりの基本方針	3
2. 施策の大綱	5
3. 主要指標の見通し	7
(1) 総人口・世帯数	7
(2) 就業人口	8
4. 将来地域構造	9
(1) 将来都市構造の特徴	9
(2) ゾーン・エリア別土地利用方針	9

1. 宝達志水町の将来像

(1) 計画の趣旨

本町は、平成 19 年 3 月に第一次宝達志水町総合計画を策定し、将来像を『水と人が奏でるハーモニーのまち』と掲げ、基本目標である「地域の個性を活かしたまちづくり」「パートナーシップで進めるまちづくり」「小さくても住民サービスが行き届いたまちづくり」の実現に向け、まちづくりを進めてきました。

しかし、全国的な少子高齢化に伴う人口減少の進行を受け、本町でも年少人口と生産年齢人口の減少、老年人口の急激な増加が見込まれており、長期的な町の存続に向け速やかな対策が必要な状況です。また、近年の豪雨や豪雪といった自然災害の多発、ICT や IoT^{*1} といった高度情報化の進展など社会情勢がめまぐるしく変化しており、併せて、環境負荷の低減や健康、福祉の充実などに向けた SDGs^{*2} の視点での対応も重要となっています。

一方で、本町においては地方創生に取り組むべく「宝達志水町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、安定した雇用の確保、新しい人の流れの創出、若者世代の子育てなどの支援、地域間連携といった目標を立て、人口減少の克服に取り組んでいます。

このような状況の中で、第二次宝達志水町総合計画では、時代の変容に対応できるよう、第一次総合計画の内容を踏襲しつつも、働く場所や住み良い環境の拡充を図ることで地元への定住や I ターン・U ターンを促進しつつ、町民が安心して快適に豊かな暮らしをしていくための指針として策定するものです。

※1 IoT…Internet of Things の略。モノがネットワークに接続され、データがやり取りされることで新しい価値を生み出す。

※2 SDGs…持続可能な開発目標 (SDGs) とは、国連が示す 2016 年から 2030 年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための貧困や飢餓の撲滅、気候変動対策、資源保全など 17 のゴール・169 のターゲットから構成されている。日本でも地方創生につながるものとして注目されています。

(2) まちづくりのテーマ

人口減少は地域の活力低下、コミュニティの喪失につながります。本町が有する宝、貴重な資源（人や自然、文化など）を、途切れることなく、これからも継承していくことが必要です。そのため、本町が次世代に向けて今後も発展していくことを強く示し、安全・安心で豊かな暮らしの実現を目指します。

まちづくりのテーマ

『次の時代へ続く、いつまでも住み続けられるまち』

①地域の資源を活かした住みやすいまちづくり

- ・本町の豊かな自然環境、歴史文化、交通利便性や災害が少なく安全な住環境などを活かした住みやすい住環境を整備します。

②からだところを育むまちづくり

- ・こどもから高齢者までが健康で、いつまでも学び、豊かなところを育めるまちを目指します。

③豊かな活力と交流のまちづくり

- ・地域の魅力向上や産業振興などにより、定住の促進を進めます。
- ・町内外の交流の促進などにより、地域の魅力を磨きます。

(3) まちづくりの基本方針

1 生活環境の整備

豊かな自然を活かしつつ、若者をはじめとした子どもから高齢者まで、町内に住む全ての人が住みよく、町外からも移り住みたくなる、住み続けたいまちを目指した住環境、公共空間や公共交通の整備を進めます。

また、地球温暖化対策や循環型社会の実現に向けたリサイクル運動、公害防止対策を進め、山・川・海の循環の中で、まちの誇りである豊かな自然環境の保全・再生に努めます。

さらに、住民意識の啓発なども図りつつ、災害に強く、犯罪のない安全・安心のまちづくりを目指します。

2 都市基盤の整備

豊かな活力と交流あるまちづくりを実現するために、戦略的な土地利用を進めます。幹線道路や生活道路の整備のほか、有休施設の活用や子どもから高齢者まで安心して憩え遊べる公園や緑地の整備充実を図ります。

また、住民の生活のあらゆる面で、安全性、利便性、快適性を確保するため、従来から進めてきた道路や上・下水道などの生活基盤の整備や更新を進めます。

さらに、住民や新たな産業の需要に応じた情報と通信基盤の整備を進め、活力と魅力あるまちづくりを目指します。

3 保健・医療・福祉の充実

きめ細やかで総合的な子育て支援対策により、様々な家族形態・就労状況に合わせた子育てが安心してできるまちづくりを目指します。

また、少子・高齢化が進展する中で、若者が魅力を感じ、老後の心配もなく生き生きと暮らせ、子育て環境の充実した、だれもが健康で安心して暮らせるまちづくりに努めます。

さらに、医療・福祉が連携して充実を図るとともに、住民一人ひとりの主体的な健康づくりを支援し、生きがいや目標を持って暮らせるまちづくりを進めます。

4 教育・文化・スポーツの充実

まちの未来を担う子ども達がたくましく、心豊かに育つよう、学校を取り巻く諸条件を踏まえ、よりきめ細やかで多様な教育内容の実践や教育施設の整備・充実に努めます。併せて、地域活動社会との繋がりにより、健やかで安全に成長できる環境づくりを進めます。

また、活動の支援や公共空間の整備・利活用により、地域住民が生きがいを持って元気に暮らせるための活動の場づくりを進めます。

5 産業の振興

人口減少や町外への流出により就業者数が減少する中、町の活力維持のため、就業者数の増加や働く場の確保に対する支援に努めます。

また、農業や製造業の持続的な発展を図りつつも、多様で豊かな地域経済を形成するために農産物等のブランド化や新規事業の支援を積極的に推進します。なお、農業は、生産活動だけでなく、農地の保全が防災や景観の上で重要であることを踏まえ、総合的な支援に努めます。

さらに、商業や観光などの振興にも努め、雇用の場を確保して定住を促進し、活力あるまちづくりを目指します。

6 地域力を磨くまちづくりの推進

自然や歴史、文化の継承しつつも魅力ある地域資源として住民参加・連携・交流により磨き上げ、町内外の交流を促進します。

また、郷土愛を育みつつも、国際交流の推進により異なる文化の尊重と世界に通じる住民の育成を目指します。

さらに、各種団体やボランティア、NPOなどの活動をはじめ、男女共同参画社会の確立を促進し、様々な分野で住民の主体的なまちづくり活動と一体となった協働のまちづくりを目指します。

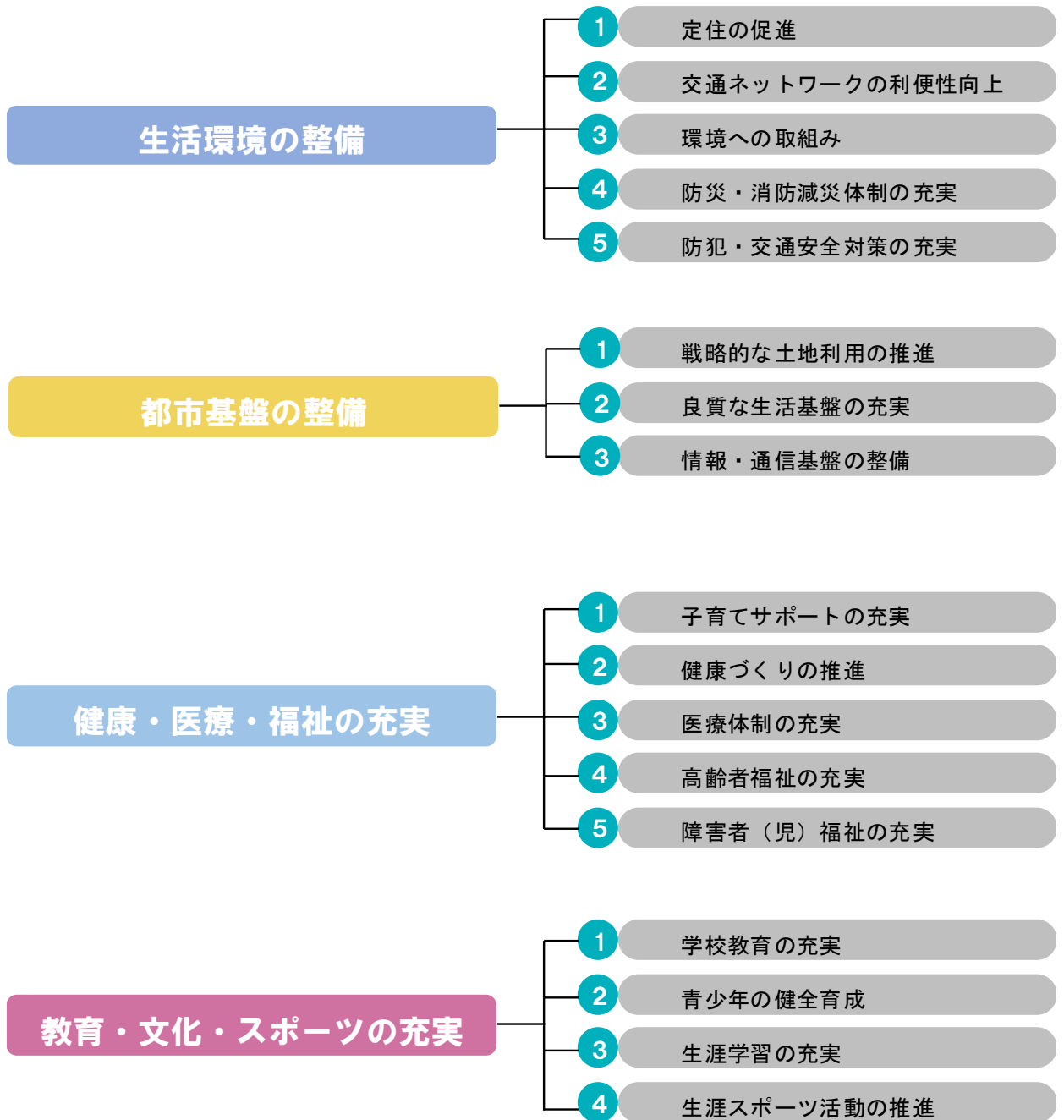
7 健全な行財政改革の推進

人口減少や地域経済の縮小を踏まえ、適切な行政サービスを町民に将来にわたって安定的に提供できるよう、持続的な行財政基盤づくりを目指します。

また、行政運営の効率化や健全財政の推進に向け、宝達志水町行財政改革大綱に基づき、民間活力の活用など、時代の流れに応じた持続可能な行政運営に努めます。

さらに、行政の運営体制についても、住民の意見を踏まえつつ、組織や機構の簡素化、事業の整理や合理化、行政手続きの簡素化などにより、経費節減による財政の健全化、公営企業及び公社の経営健全化を図ります。

2. 施策の大綱



産業の振興

- 1 農林水産業の振興
- 2 商業の振興
- 3 工業の振興
- 4 観光の振興

地域力を磨くまちづくりの推進

- 1 町内外の交流の促進
- 2 歴史・文化遺産の継承
- 3 自助・共助・公助の連携
- 4 男女共同参画社会の確立
- 5 国際交流・多文化理解の推進

健全な行財政改革の推進

- 1 持続可能な行政運営の推進
- 2 財政健全化の推進
- 3 公営企業の経営健全化

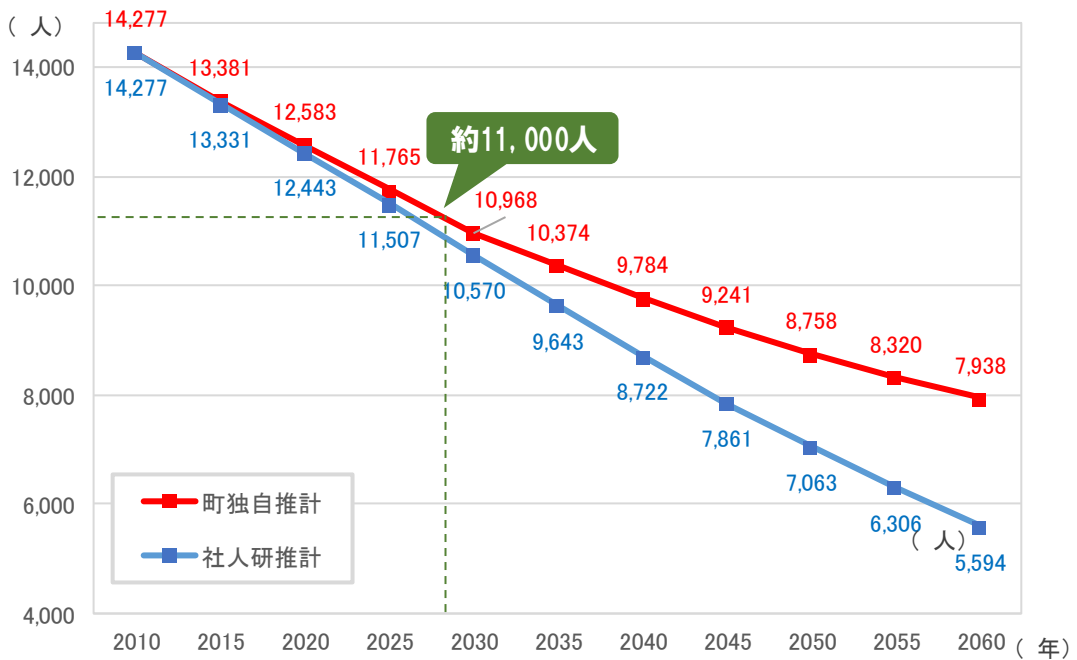
3. 主要指標の見通し

(1) 総人口・世帯数

宝達志水町人口ビジョンでは、長期的な人口減少の影響を見据えながらも、人口減少は不可避であることを受け止め、バランスの取れた年代別人口の確保を図り、2040年の時点では約8,000人を維持することを目指すものとしています。

本計画においても、2029年度に概ね11,000人の確保を目指しています。

社人権・町独自推計の人口の推移



出典：宝達志水町人口ビジョン

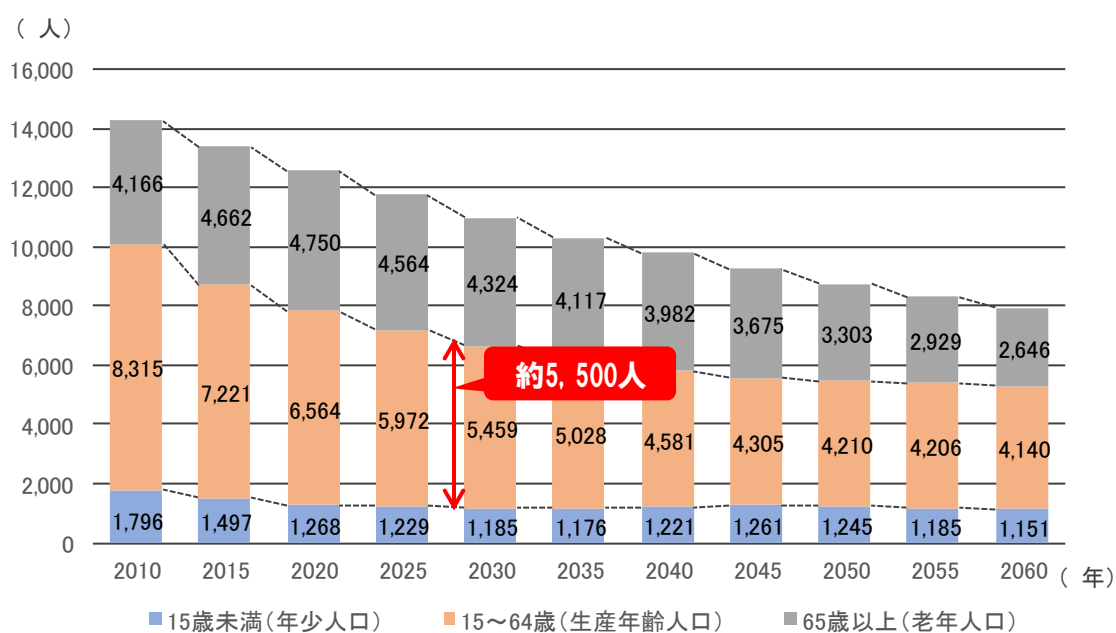
宝達志水町人口ビジョン…対象期間を2060年とし、目標を約8,000人の人口維持する、としています。

(2) 就業人口

本町では年少人口（15歳未満）と生産年齢人口（15～64歳）のうち若年層の減少が続いている一方で、老年人口（65歳以上）が増加しています。そのため、宝達志水町人口ビジョンでは、若者定住促進や移住希望者への住環境整備及び子育て支援などを強化し、高齢化は進むものの、年少人口と生産年齢人口の長期的な安定確保を目指しています。

本計画においても、2029年度に生産人口を概ね5,500人の確保を目指しています。

年齢別（3階層）人口の推移



出典：宝達志水町人口ビジョン

4. 将来地域構造

(1) 将来都市構造の特徴

本町は、東に南北に縦断する宝達丘陵、西に日本海を有し、これらにはさまれた平野部は、良好な農地となだらかな丘陵地が広がっています。平野部には、のと里山海道や国道 159・249 号といった道路網と JR 七尾線が縦断し、町内や近接した市町、金沢都市圏や七尾都市圏と接続しています。また、宝達丘陵を越えて高岡都市圏と接続する道路網も整備されています。

将来における都市構造を「4ゾーン」と「2エリア」に分け、良好な住環境や自然環境を保全しつつも活力ある都市の構築を目指します。

(2) ゾーン・エリア別土地利用方針

①既成市街地ゾーン

住宅や生活利便施設、公共施設が立地するゾーンで、ゆとりある住環境を保全しつつ、買い物環境や憩いの場の充足しながら、快適な市街地を形成します。

②田園・集落ゾーン

良好な農地と集落が広がるゾーンで、都市ににぎわいや活力を与えるエリアを内包しつつ、農地の保全と集落居住環境の向上を図ります。

③振興・交流ゾーン

レジャー施設や発電所、工場、試験場といった施設が立地するゾーンで、自然環境を保全しつつ、産業振興を持続的に図ります。

④自然保全ゾーン

町内を流れる河川の源となる宝達丘陵の山林が広がるゾーンで、開発を抑制し豊かな自然環境を保全しつつ、身近に自然や歴史を感じられる場所を確保します。

⑤海浜リフレッシュエリア

なぎさドライブウェイを有する海岸のエリアで、砂浜の保全をし、憩いの環境の充実と交流の促進を図ります。

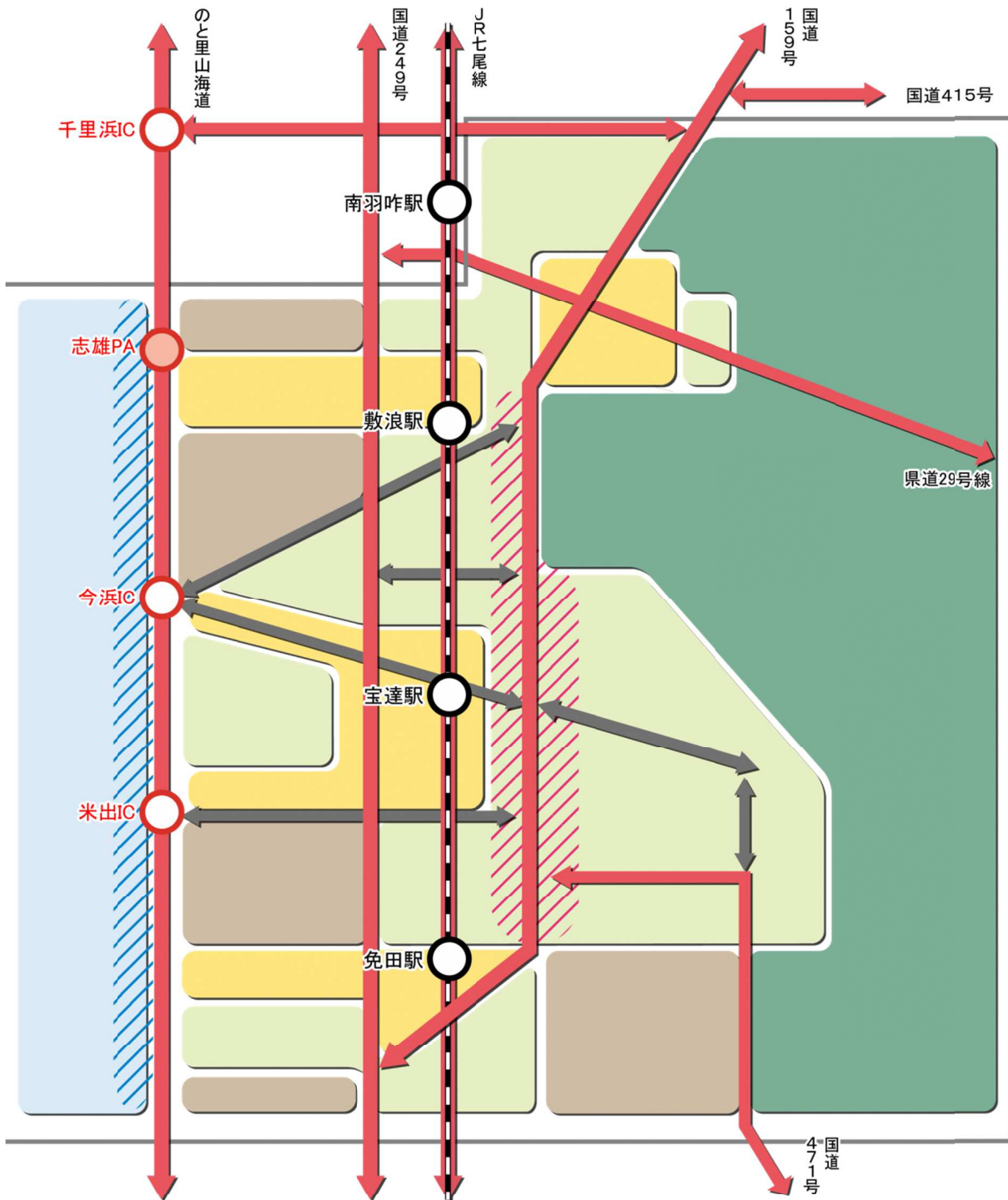
⑥沿道にぎわいエリア

田園・進行ゾーンの内、国道 159 号沿線の交通アクセスに優れたエリアで、都市ににぎわいや活力を与える施設の立地を図ります。

○軸の考え方

広域交流軸・・・のりと里山海道、国道 159 号、県道 29 号線、JR 七尾線などについては、金沢都市圏や七尾都市圏、高岡・氷見都市圏などの町外と結ぶ重要な路線であるとともに、北陸自動車道や北陸新幹線などとも連携する広域的かつ重要な交流軸として、交通ネットワーク機能の充実および路線の積極的な活用を図ります。

都市構造のイメージ



- | | | | | | |
|---|------------|---|---------------|---|-------|
|  | ① 既成市街地ゾーン |  | ④ 自然保全ゾーン |  | 広域交流軸 |
|  | ② 田園・集落ゾーン |  | ⑤ 海浜リフレッシュエリア |  | 地域生活軸 |
|  | ③ 振興・交流ゾーン |  | ⑥ 沿道にぎわいエリア | | |